

事業概要	日本唯一の虎斑竹(とらふだけ)を中心とした製品・竹細工の製造販売、インターネット通販
部署	竹虎EC事業部
所在地	〒785-0024 高知県須崎市安和913-1
連絡先	(電話番号)0889-42-3201 (E-mail)info@taketora.co.jp
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	虎斑竹は、高知県須崎市安和のごく限られた区域でしか成育しない、表皮に虎模様の浮かびあがる不思議な竹。古くは土佐藩山内家に年貢の代わりに献上されていました。竹を伐り出すために管理される山は珍しく、更に、江戸時代から現代まで変わらず生産を続けているのは歴史的にも貴重な営みです。竹虎ではこの伝統を後世に残すため、間伐の竹を竹炭に加工するなど、廃材にも価値を見つけ、経済と資源が循環するよう努めています。生命力が強く加工しやすい竹は、継続利用可能な唯一の天然資源であり活用すれば費用対効果の高い素材です。地域の宝である日本唯一の虎斑竹を100年後に繋げていくことにより自立できる地域づくりを実現します。

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション	<p><b>分野</b> 観光ビジネス／農林水産業・地場産品</p> <p>2013年に有名タレントの人気番組で巨大竹水鉄砲作りにチャレンジしました。須崎市の協力の下、地元高校生・市民総勢100人が参加。人口700人の静かな田舎町に近郊の人々が集まりにぎわいました。</p> <p>2015年にはクラウドファンディングを活用し、虎竹製の電気自動車を製作。全国135名から350万円の支援を頂きました。続く2016年「チャレンジラン横浜」と合わせ、日本唯一の虎竹電気自動車プロジェクトをきっかけに、メディアに44回(内1回は海外)とり上げられ、虎竹と虎竹の里の知名度を上げています。</p> <p>このような活動が2019年夏に開催されたスペインはビトリアのボックスカートレースへ繋がりました。新しく竹製カートを製作してレース参加しましたが、それを契機にフランスからも世界竹機構の会長率いるチームの参加が決定。海外からの出場は、スペインのボックスカートレース60年の歴史上初めての事だそうです。当日はスペイン・フランス・日本で竹の車のチームを結成し、テントブースを借りて竹素材の有用性をアピールした結果、3チーム合同で特別感謝賞を受賞しました。</p> <p>虎斑竹を使った新商品の開発やインターネットで虎竹の里の情報発信を続けると同時に、世界竹会議(World Bamboo Congress)での講演、海外の展示会などの場を活用し、世界に向けて日本唯一の虎斑竹のPRもしています。虎竹のブランドを高めることで地域資源、観光資源としての価値を高め地域活性に還元、地元をはじめU・Iターンや若手職人の雇用を生み虎竹の里を発展させる事ができます。最近では新しいモノづくりにより職人に活気が生まれコミュニケーションが活発になりました。自分達の仕事が外部から高く評価された事がやりがいに繋がったようです。次世代を担う若者にも虎竹を認識してもらい竹を暮らしに取り入れる事を入り口に環境意識や暮らし方、働き方を変えていけると考えています。</p> <p><b>URL</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>虎竹の里の「ザ！鉄腕！DASH！！」な一日 <a href="https://www.taketora.co.jp/special/tetuwandash.html">https://www.taketora.co.jp/special/tetuwandash.html</a></li> <li>日本唯一の虎竹自動車プロジェクト チャレンジラン横浜！ <a href="https://www.taketora.co.jp/special/bamboocar2.html">https://www.taketora.co.jp/special/bamboocar2.html</a></li> <li>スペイン・ビトリアのボックスカートレース <a href="https://www.taketora.co.jp/diary/2019/08/post-3925.html">https://www.taketora.co.jp/diary/2019/08/post-3925.html</a></li> <li>第11回世界竹会議(11th World Bamboo Congress Mexico)竹虎四代目基調講演 <a href="https://www.taketora.co.jp/special/keynotespeaker.html">https://www.taketora.co.jp/special/keynotespeaker.html</a></li> </ul>
上記ソリューションを提供できる地域について	高知県須崎市

## 自者の特徴

竹材商だった初代 宇三郎が高知県須崎市安和でしか生育しない、竹表皮に虎模様の浮き出る不思議な竹、虎斑竹(とらふだけ)に出会って以来、四代に渡り地域資源「日本唯一の虎竹」の管理、生産を続けてきました。100年後も虎竹の里であり続けるため、2001年からネット通販事業を展開し竹製品の需要を高め、竹林見学の受け入れやユニークな竹細工の製作・プロジェクトを通し、竹文化の創造と発信に努めています。

## ①インターネットの活用

竹製品のネット通販で全国、海外からの需要に応える。ブログやInstagramなどSNSを活用し、虎斑竹や製品の事、竹の伐採シーズンや地元のお祭り、イベントなど虎竹の里の「今」を発信。Facebookでは約4.8万人のフォロワーのもとに毎日情報が届いています。

## ②竹林見学やインターンシップの受け入れ

虎斑竹の生産・加工現場を視察に来る竹研究者や研修旅行、デザイナーなど国内外の個人・団体の見学を受け入れています。また、若者にも地域資源と文化継承に目を向けてもらうため毎年8月に10日間のインターンシップを実施しています。

## ③日本唯一の虎竹電気自動車プロジェクト

斜陽化する竹業界に危機を感じ、環境にも人にも優しい竹の無限の可能性を示すために、日本唯一の虎竹電気自動車「竹トラッカー」を製作。製作資金は2015年にクラウドファンディングで募りました。完成した2016年には高知から横浜まで1000キロを走破する企画「チャレンジラン横浜」に挑戦し無事完走、実用としての耐久性を証明しました。そして2018年8月、海を渡りメキシコで開催された第11回世界竹会議でも竹トラッカーを披露。弊社代表 山岸義浩が基調講演を行う際に竹トラッカーに乗車して登場し、会場を沸かせました。さらには、メキシコの街を走行。地元メキシコの方々がカメラを片手の大勢集まり大熱狂となりました。

## ④竹製車両「REIWA-125号」を製作

スペインのボックスカートレースに出場し、世界に向けて地域資源の虎竹と竹素材の魅力を発信しました。上記、第11回世界竹会議に参加した際、一人のスペイン人男性からレースに誘われたのが今回の取組のきっかけでした。レースの地、スペイン ビトリア＝ガステイスは欧州グリーン首都にも選ばれた環境都市です。ボックスカートレースはエンジン無しの坂道レース。排ガスを出さないエコな大会に自然素材の竹の車で参加することで、一貫して環境へのやさしさを訴求できると考えました。大会では虎竹で鎧型のプロテクターも製作。竹の丈夫さ、日本らしさ、そして虎竹の歴史をアピールしました。

<b>自者の特徴</b>	<p>⑤パリの展示会 2020年1月からは、フランス国内巡回展「日本の日常生活の中の竹」(日本の日常生活における竹の展示)を開催。弊社代表 山岸義浩が先代、先々代より受け継いできた竹細工をはじめ、暮らしの中で愛用されてきた昔ながらの竹製品を展示しています。かつて竹は衣食住すべての暮らしの中に深く関わってきました。親しみやすく、実用性に富んだ「日本の日常生活の中の竹」を海外の方にも知って頂く機会になると思い取り組んでいます。9月末までパリ会場で開催した後、リオン、ツールーズと会場を変えフランス国内を巡回していく予定です。</p>
<b>SDGs経営に向けた自者の課題や悩み</b>	<p>プラスチックごみなど環境問題に対する意識の高まりもあり、竹の活用は見直されつつあります。しかし依然として竹林の有効活用は進んでおらず、竹文化や技術の継承は大きな課題です。虎竹についても歴史的、文化的な価値は人々に浸透していません。どうすればより多くの人に情報を伝えられるか。幅広いターゲット、特に未来を担う若者に竹を知って使っていただくかを常に考えています。海外での活動が、竹製品に注目する契機となりつつあります。SNSを活用した今までの取り組みも少しずつ浸透して海外からの問い合わせも多くなりましたが、過疎地を盛り上げるための職人を養成する設備、住居などが課題です。</p>

## ●虎斑竹専門店 竹虎について

自分達「虎斑竹専門店 竹虎」は、高知県は須崎市安和にある、わずか1.5キロの間口しかない谷間にある「日本唯一の虎竹の里」に本社工場、実店舗を構える田舎の小さな竹屋です。創業は明治27年、今年で125年にわたり、ここにしか成育しない虎模様が浮き出る不思議な虎斑竹（とらふだけ）を中心に日本の竹材メーカーとして竹専門で商いをさせて頂いてきました。



(株)山岸竹材店 竹虎  
高知県須崎市安和 虎竹の里

## ●日本唯一の虎斑竹（とらふだけ）

日本唯一の虎竹自動車を製造する虎斑竹（とらふだけ）をご存知でしょうか。表面に虎皮状の模様が入っているところからこう呼ばれる竹です。この模様は幹に付着した寄生菌の作用によるとの学説もありますが、全国でも安和の虎竹の里でしか成育しない不思議な竹なのです。かつてはイギリス BBC 放送も取材に来られ、その際には「ミラクル！」と連発されていました。高知市五台山には、命名の父である世界的植物学者の牧野富太郎博士ゆかりの牧野植物園があり、こちらにも虎斑竹を移植しています。

これまでも各地に移植を試みたものの何故か虎模様が綺麗にできず虎斑竹になりませんでした。やはり牧野植物園でも美しい虎模様はできていません。まさにミラクルバンブー。虎斑竹は虎竹の里の風土が育んだ山の幸なのです。地域資源である虎竹の自動車を製作し、実際に走らせることにより、その走りが竹産業のみならず地域の活性化を課題とする地方の元気に繋げられる事になればと願っています。



竹虎四代目携帯	090-3132-8283
メール	info@taketora.co.jp
URL	https://www.taketora.co.jp/
営業時間	朝9時～17時30分（土日曜定休）
〒785-0024 高知県須崎市安和 913-1 日本唯一虎竹の里 (株)山岸竹材店 代表取締役社長 竹虎四代目（山岸義浩・やまぎしよしひろ）	

## ●竹虎の活動実績 ～海外との交流、取り組み～

- 2015年 一般社団法人ジャパングリエイティブより、日本のモノ作りを情報発信するための企業に選出  
ドイツ人デザイナーの Stefan Diez (ステファン・ディーツ)氏と共同で竹の家具を製作  
家具国際見本市「Stockholm Furniture Fair (ストックホルム・ファニチャー・フェア)」に出展  
(スウェーデン)
- 2016年 全米最大級ファッション展示会 COTERIE 出展 (アメリカ)
- 2017年 ファッション小物展示会 Premiere Classe (プルミエール・クラス) (フランス)
- 2018年 11th World Bamboo Congress Mexico (第11回世界竹会議メキシコ)に、弊社代表取締役社長 山岸義  
浩 (竹虎四代目) が基調講演者として登壇 (メキシコ)
- 2019年 スペインのボックスカートレースに参加、特別感謝賞受賞 (スペイン)
- 2020年 フランス国内巡回展「日本の日常生活の中の竹」



## ●メディア掲載回数 517 回以上

竹虎は現在 517 回以上のメディアに掲載いただいております。小さな田舎の竹屋が新聞、テレビ、雑誌で取り上げてもらえる事は地方を活性化させ、勇気づけると共に、全く知られていなかった地方資源に光を当てる事になり、竹産業界全体にも元気を取り戻す良い影響があるのではないかと考えています。



## ●サステナビリティ（持続可能性）

竹から生まれた、かぐや姫はどんどん大きくなり、わずか3ヶ月で美しい娘に成長しましたが これは単なる昔話ではなく実際の竹の成長スピードを表したお話です。大きくなるまで数十年かかる木と違い竹の成長はとても早く、わずか3ヶ月で二十数メートルの高さの親竹と同じ大きさに成長し、たったの3年もすれば資源として有効利用できるようになる、この環境に優しく、無限の可能性を広く知ってもらいたいです。

## ●竹の可能性

竹が昔から身近で多用されてきたのは、加工しやすく、柔軟で、堅牢な素材だからです。海外では高層ビルの足場にも使われるほど、強く、しなりがあり、日本でも昔から竹差しなどがあるように狂いが無いのも特徴の一つです。そして一本の竹を割って竹ヒゴにすると、やわらかい曲線の表現が自由自在となり、編み込む事で様々な形の籠や笊といった強く、便利な容器として生まれ変わることかできるのです。

